

## サザンカ

学名： *Camellia sasanqua* Thunb. 科名：ツバキ科



この植物の写真をみて、一見ツバキに似ているなと思われた方も多いと思います。サザンカはツバキの類似植物で相違点は、ツバキより葉が小さく葉柄は有毛ということ。開花期は10〜12月頃で、大きな5弁花をつけます。野生のサザンカは白色ですが、栽培される園芸種は淡紅色・紅色・濃紅色と様々な色があります。ツバキより耐寒性が弱いいため、四国の西南部・九州の中南部・沖縄西表島・沖縄本島などの暖地に分布しています。

秋に種子を採取して、一週間ほど天日で乾燥したあと種子を砕き精製して油を採取します。サザンカ油はツバキ油とほぼ同じ成分の脂肪油で、保湿成分で皮膚の構成成分であるオレイン酸を豊富に含有するため、肌の乾燥を防ぎ皮膚を保護する効果があるとされています。近年、ツバキ油やその類似植物の植物油は、化粧品やシャンプー・リンスなどにも含有されており、乾燥から肌を保護し柔軟性とツヤを与えることを目的として製品化されています。今の時期、空気が乾燥し肌も乾燥しがちですが、かさかさ肌にお悩みのかたは使用してみるのいいかもしれません。

生薬名 サザンカ油（山茶花油）

薬用部位 種子

薬効 保湿、皮膚保護作用

用途 軟膏の原料や化粧品に含有され用いられる。

# ハゼノキ

学名：*Rhus succedanea* L. 科名：ウルシ科



紅葉が美しいハゼノキは、樺紅葉（ハゼモミジ）と呼ばれ秋の季語として俳句に用いられています。海外では中国や台湾など、日本では四国や九州、沖縄などの温暖な地域に分布している高さ約10メートルの落葉高木です。ハゼノキの葉は互い違いに奇数枚生える奇数羽状複葉で、5〜6月頃になると小さな黄緑色の花を咲かせます。

ハゼノキの実から採取できる蠟は「木蠟（モクロウ）」と呼ばれ、日本では古い時代からロウソク材料として用いられてきました。木蠟は「パルミチン酸」などの脂肪酸で構成される脂肪成分を主に含みます。ロウソク以外の用途では、「蜜蠟（ミツロウ）」の代わりに軟膏や坐剤などの医薬品の基剤として用いられてきました。また、ハゼノキの根皮を煮出した汁は、腫れ物の解毒や止血などに効果があるとされています。

ハゼノキはウルシ科の植物です。ウルシと聞くと、かぶれると言う印象が強いと思います。ハゼノキもウルシと同様にかぶれる恐れのある植物です。樹液に触れたり、必要以上に近づき過ぎたりしないように注意しましょう。

生薬名	木蠟（モクロウ）
薬用部位	ろう、根皮
薬効	解毒、止血作用〈根皮〉
用途	軟膏、坐剤などの基剤に用いられる。〈ろう〉 ロウソク、艶出し剤、ポマードなど 腫れ物の解毒や止血などに用いられる。〈根皮〉



# スイセン

学名： *Narcissus tazetta* L. 科名：ヒガンバナ科



この植物は地中海沿岸部原産で暖かな地域を好み、日本では海岸の砂浜に多く分布しています。また、鑑賞用として庭などで多く栽培されています。地面からまっすぐに伸びる茎と根から直接伸びている細長い葉が印象的で、冬の時期から春先にかけて、茎の先に小さな白い花を、まるで花束のように咲かせます。日本に分布しているスイセンの中には、花の中央部分が黄色くてかわいいものも存在しています。

球根の部分は「水仙根（スイセンコン）」と呼ばれる生薬であり、肩こりやできものに効果があるとされています。しかし、スイセンは有毒植物としても知られており、嘔吐や下痢、呼吸困難などの様々な症状を引き起こすアルカロイドが含まれているため、誤って食べてしまうと命に関わります。食用として用いられるニラとは葉の形や色が非常に似ているため、間違っって食べてしまう食中毒事故が報告されることもあります。

スイセンに限らず、自生している植物や家庭で育てた植物を食べる際は、安全面に注意して適切に取り扱う必要があります。

生薬名 水仙根（スイセンコン）

薬用部位 球根

薬効 消腫、鎮痙作用

用途 肩こりやできものに用いられる。

